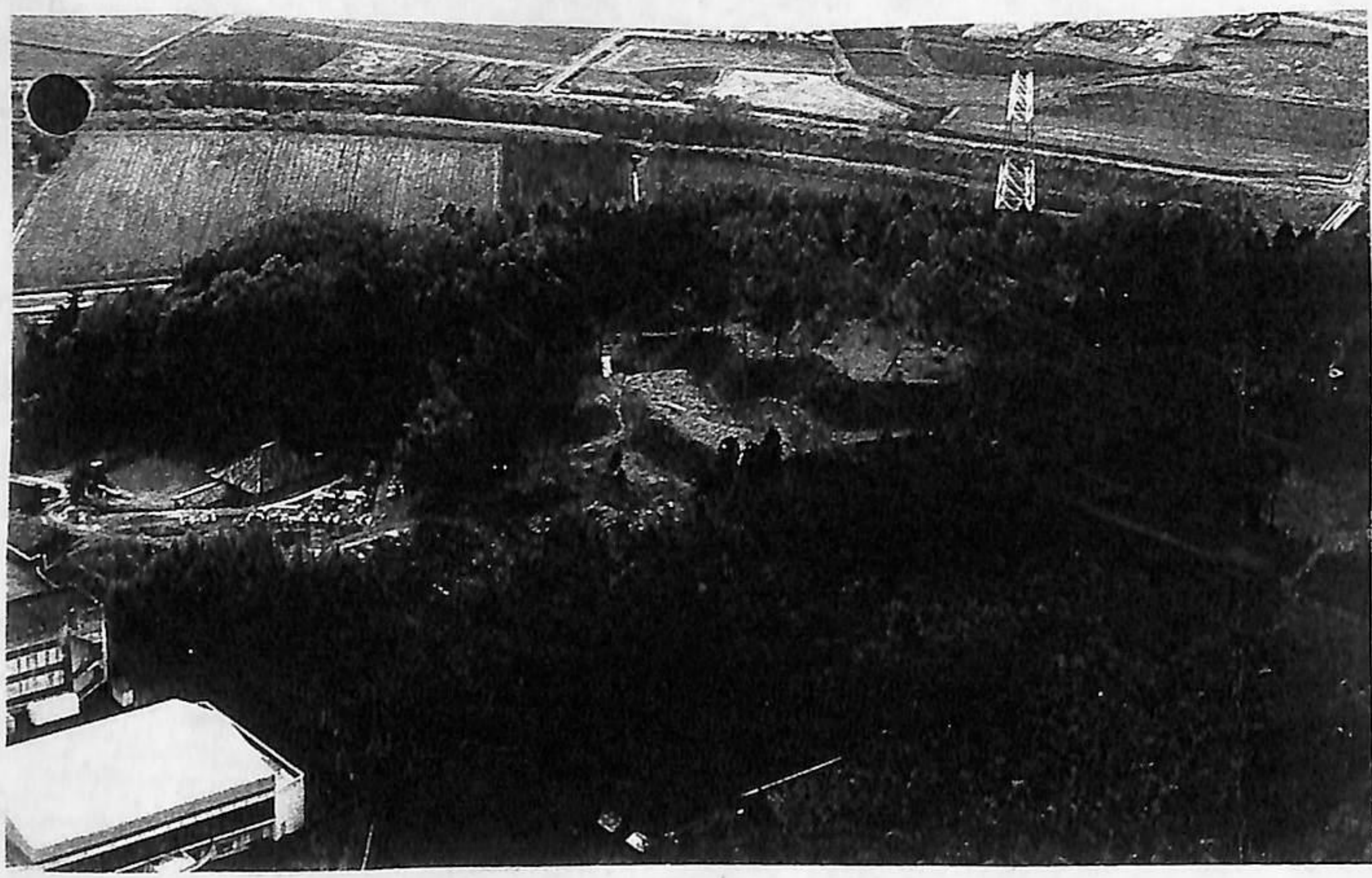


城を歩く会 3月定例会「日帰りバス見学会」

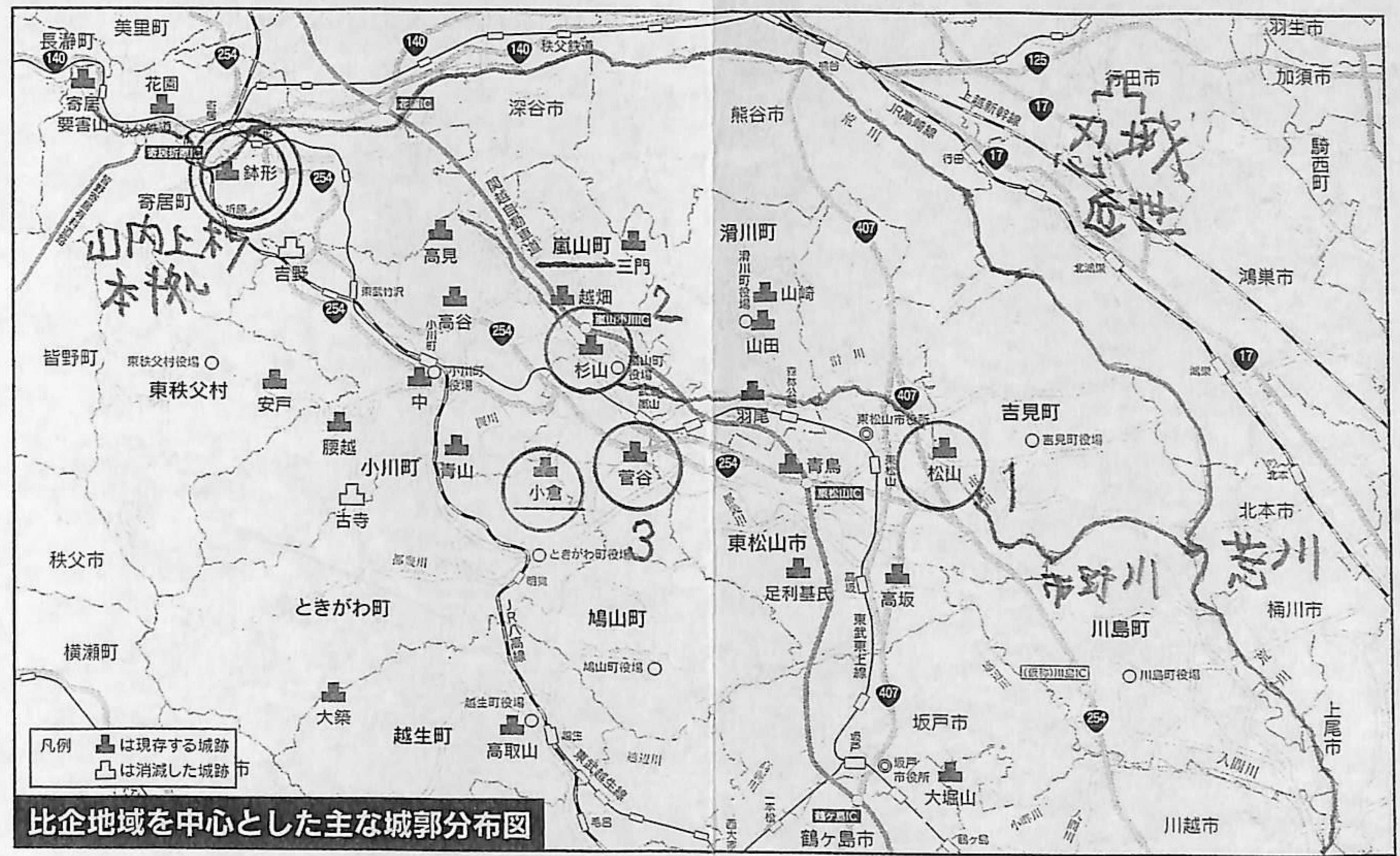
中世の武蔵野・比企地方の3名城をめぐる

国指定史蹟＝比企城館跡群・杉山城を歩く

平成26-3-11 山岸弘明



びょうぶ所
杉山城
← 全宗航空写真



比企郡 武蔵本拠 川越

本日の主要スケジュール

- 8時00分 池袋駅西口公園スタート、関越自動車道
- 9時30分～11時00分 松山城（国指定史蹟）
- 11時00分～12時00分 吉見百穴（昼食）
- 13時00分～14時30分 杉山城（国指定史蹟）
- 15時00分～17時00分 菅谷城（国指定史蹟）＋県立嵐山史蹟博物館
- 19時00分 池袋着解散

比企郡ものがたり＝ひとくちメモ

- ①武蔵国の郡名。現在は埼玉県。荒川の支流・市野川流域を占め、西は秩父、北は大里、南は入間の諸郡と接し、東は荒川本流に望む。
- ②郡の起りは不明だが、郡内に古墳が多く早くから開けたもののようである。
- ③「和名抄」は比岐と書き、当時郡家、滑後（沼乃之利）、都家、鹹瀬（加良世）の4郷からなった。
- ④中世室町期の守護は関東管領上杉一族の山内上杉家で、水尾谷、小見野、小代、野本、押垂、吉見、比企の諸氏の根拠地であった。このころ松山城が築城されて郡の中心となる。
- ⑤鎌倉公方足利家と管領家による関東の動乱が始まると山内家の執事・大田道灌が率いる管領方が優勢であったが、死後山内家が造反して三つ巴の乱戦となる。川越を武蔵の本拠とする扇谷家に対し鉢形城を本拠とする山内家が次々の前線基地を築き、比企地区を中心に激しい戦闘を繰り広げた。
- ⑥16世紀になると小田原北条氏が武蔵への進攻を開始、扇谷家の関東管領を引き継いだ上杉謙信と衝突するが、やがて後北条氏の支配下となり天正18年豊臣秀吉の小田原征伐まで続いた。
- ⑦近世徳川時代は天領、私領が錯綜、村数159で明治維新を迎えた。
- ⑧明治12年郡区町村編成法の施行で郡治の中心が松山町におかれた。現在は東松山市、嵐山町、吉見町、小川町などになっている。

杉山城ひとくちメモ

- ①山内上杉家築城。扇谷家武蔵本拠の河越城に対抗した比企城館群のひとつ。鉢形城と松山城を中継した。
- ②15世紀後半～16世紀前半。短期の城。実戦の城。城主不詳。梶山の陣（大永年間）
- ③比高45m、平山城（岡城）
- ④ほぼ完全保存。平成14年から発掘調査、復元整備、平成20年国指定史蹟
- ⑤戦国前期としては高度な築城技術。
- ⑦郭、枡形虎口、馬出し、櫓、土塁、空堀、切り岸。徹底した横矢掛り
- ⑧平底空堀、堀底道、堅堀。掘り切りはない



松山城



吉見百穴



菅谷城



杉山城跡案内図

玉ノ岡中学校

杉山城とご案内コース

「戦国期城郭の最高傑作のひとつ」山内上杉家が築城

戦国時代はじめ15世紀末から16世紀初頭にかけての関東は、太田道灌没後分裂した関東管領家の山内・扇谷両上杉氏と鎌倉公方の後胤・古河公方家が三つ巴の抗争を繰り返していた。「長享の乱」と呼ばれる一連の戦いのなかで比企嵐山地区は山内上杉家の拠点・鉢形城と扇谷上杉家の拠点・河越城のほぼ中間に立地したので、攻防拠点として激しい戦いを繰り返した。松山城と杉山城は山内上杉家が扇谷上杉家への前線基地として築城したもので、関東における小田原北条氏以前の築城方法を示す遺構としても注目されている。

杉山城は鎌倉街道上（かみつ）道を眼下に見下ろす小高い丘陵上に位置し、その縄張りは本郭（本丸）を中心に3方向に張り出す尾根上に展開する。大手口を構える南側は南2郭、3郭をへて外郭、出郭の順に並び、東側は東2郭、3郭、北側は北2郭、3郭を経て搦め手口になる。

それぞれの郭の虎口は枡形、食い違いといった門を構え、強力な横矢掛りで防御線を敷く一方、帯郭や堀底道によって緊密に連携されている。また空堀と土塁は折れを連続させた「屏風折れ」がみられるなど高度な縄張り技術は「山城の教科書」「戦国期城郭の最高傑作のひとつ」と評価されている。

国指定史蹟＝杉山城を歩く

1) 積善寺から杉山城めざす

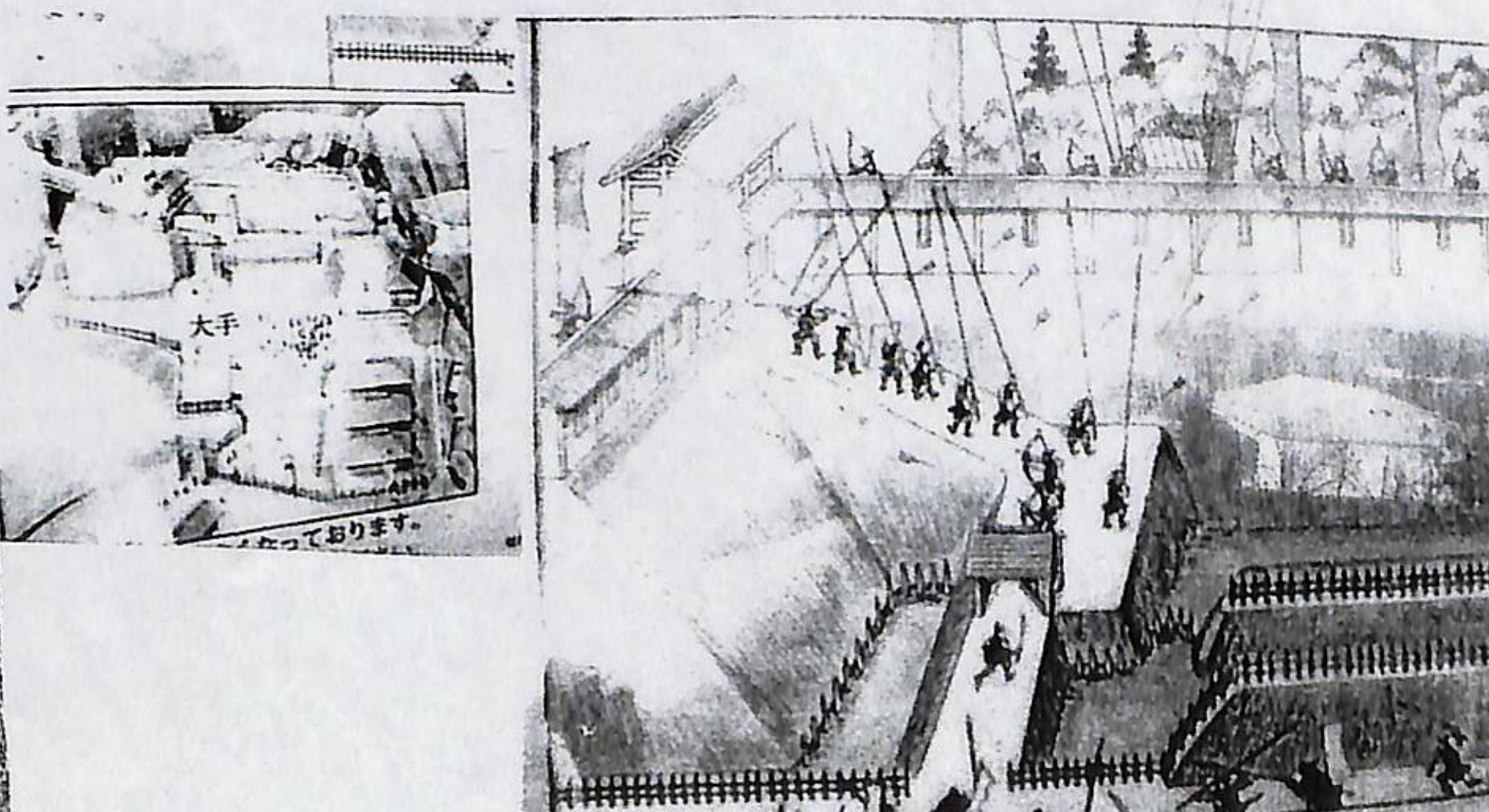
- ①東松山駅近くの松山城から一般道をおよそ1時間。嵐山町役場近く、やや高台に杉山城がある。
- ②積善寺＝城の大手口に立地、杉山城とのかかわりを窺わせる。案内看板は「創建不詳、応永年間比企、小高氏が檀主として再興されましたが再び戦に巻き込まれ寺は荒廃しました」と記すが詳しい説明はない。比企氏は山内家の地頭であろうか。鎌倉幕府創設期の功臣で北条氏によって粛清された比企氏は有名だが関係はない。築城以前から寺で比企地区の戦いで火災焼失したとしている。
- ③積善寺から裏の出郭へ。なだらかに傾斜する平場で正面の小山が杉山城になる。
- ④玉の岡中学校、谷（やつ）側、切り岸。根小屋であろうか。大手正面から城の立地を考察する。
- ⑤城歩きは豊富な説明看板を活用しながら進む。

*説明看板＝積善寺（しゃくぜんじ）

当寺は正式には福王山泉明院積善寺と称し、その神通力で日本各地に伝説の残る役小角（えんのおづぬ）の創建と伝えられています。（中略）天慶の乱で本堂を焼失した後、応永18年比企、小高の両氏が檀主として再興されましたが再び戦に巻き込まれ寺は荒廃しました。（祐源上人中興、本尊あみだ如来）



出郭から本郭までを歩く



案内看板にみえる横矢のイメージ

*教育委員会説明看板=国指定史跡・杉山城跡

この城跡は戦国時代の築城と推定される典型的な山城です。総面積は約8ヘクタールにもおよび山の高低差をたくみに利用して10余りの郭を理想的に配置していますまさに自然の要害と呼ぶにふさわしい県内でも屈指の名城と評価されています。現存する遺構の保存状態も非常によく複雑に入り組んだ土塁や堀によって構成される城構えには当時の高度な築城技術が偲ばれます。

「馬出し」や「枅形」の塁線を屈曲させて構える「横矢掛り」の多用はその典型とされるものです。また城の立地についても北方に越畑城、高見城と連絡し、西方全体に鎌倉街道を見下ろすという絶好の条件を備えています。当時の社会情勢から判断して松山城と鉢形城をつなぐ軍事上の重要拠点の一つであったと考えられます。築城年代や城主名などに不明な点も多いですが、地元では松山城主上田氏の家臣杉山(庄)主水の居城と伝えています。

*教育委員会説明看板=出郭(外郭)

大手の前に配置された郭をいい、北側には低い土塁が見られます。一見無防備に見えますが、この説明板の部分には発掘調査によって溝が掘られていることが分かり大手には直線的に進入できないよう工夫がされています

2) 正面の土塁と櫓から厳しい横矢がかかる――大手の守り

①出郭と外郭の間の空堀に大手口がある。外郭に並行した登り坂土橋で外郭の屈曲土塁や櫓から厳しい横矢を浴びる仕組みになっている。ここでは杉山城防御のポイントである「横矢掛り」を説明する。

②外郭=主郭部に対する外郭。先端の土塁は帯郭として主郭を一周している。堅堀

③主郭にむけて屏風折れ=屈曲する空堀と土塁。空堀りは平底の堀底道で武者走りになる。

④枅形と櫓

⑤馬出し郭

*教育委員会説明看板=大手

城の正門(大手)を攻める敵は左方向へ直角に曲がらなければ侵入できません。この大手に進入す際には横矢掛りのかかった左側に張り出している土塁から攻撃される仕組みになっています。敵の進入を防ぐ多角的な防御の仕組みを見ることができます。参考図 大手門、横矢掛りのイメージ、横矢掛り

*教育委員会説明看板=屏風折れ

正面に見える南2、3郭の東外側斜面は屏風のように幾度も折れています。防御に対する工夫を見ることができます

*教育委員会説明看板=木橋

大手から外郭に入り本郭に向かうルートの一つとして、ここから木橋を渡り対岸の馬出し郭を経由



大手口



主郭部のびらく折れ



切り岸がづく

するルートが上げられます。木橋は敵の侵入があった時にはすぐに外せる引き橋だったと思われる

*教育委員会説明看板=馬出し郭

馬出し郭は南3の郭と大手の間に位置する堀で囲まれた小さな空間です。南3の郭みなみ虎口に向かい登っていくと左側の土塁が張り出しており、横矢掛りが設置され防御の工夫を見ることができます。イラスト=馬出し郭から南3の郭へ横矢掛りのイメージ

横矢掛りとは=虎口や土塁に近づく敵を横から弓矢で射るために設けられた死角をなくすために工夫された屈曲のことをいう

馬出しとは=虎口(門)の前方に配置され、堀で区画された小さな郭をいいます。攻撃の際には一気に攻めだすため兵を招集したり、守りの際には一気に攻撃から虎口を守るため兵の出入りを援護したりできるように造られた場所です

*教育委員会説明看板=土塁(帯郭)

外郭から続く土塁は帯状(帯郭)になっており、東側は深く急な2段の斜面に作られ、敵の侵入を見事に防いでいます。この土塁上をすすむと本郭東側の堀底へと繋がります。写真=伐採された樹木をチップ状に砕き地元中学校生徒のボランティアで敷かれた

3) 敵を搦め手側に廻す――南3、2郭、井戸郭

①南3の郭=南尾根の3の丸に相当。周囲に空堀、土塁を廻すが弓矢、やりを意識、狭い。虎口は枅形で井楼櫓を上げ、横矢に重点を置く。概して小型でシンプル、大軍での攻勢を想定していない。

②食い違い虎口

③南2の郭=南尾根の2の丸

④井戸郭、井戸跡=水の手

*教育委員会説明看板=南2の郭 東虎口

この虎口から一段下がりますと馬出し状の小さな平坦面(虎口受け)があります。その虎口受けからおそらく木橋がかけられ本郭東側の帯状の土塁と繋がっていたと考えられます。写真=木橋を復元した金山城

*教育委員会説明看板=南2の郭 西虎口

南2の郭から本郭へは直線侵入できません。本郭へ進むには井戸郭を通り本郭横(西虎口)から入ることになるため執拗に方向転換を迫られます。この虎口にも小さいですが左側に土塁が張り出しており、横矢掛りが設けられています。イラスト=西虎口横矢掛りのイメージ。横矢掛りとは

*教育委員会説明看板=井戸郭 東虎口

井戸郭から本郭へは、横矢掛り[]渡って入ります。本郭より少し低い郭ですが[]イラスト=井戸郭から本郭への横矢掛りのイメージ。横矢掛りとは



食い違い虎口



南2の郭



東虎口、木橋



4) 切り岸で絶壁を作る――城裏と搦め手の守り

- ①本郭南虎口＝木橋、緊急時は落とす。周囲に石つぶてを用意。
- ②城裏側の守り＝切り岸、帯郭、塹堀、二重土塁（後北条流以前のもの）
- ③北2の郭＝北尾根の2の丸
- ④北3の郭＝北尾根の3の丸
- ⑤搦め手口＝緊急時の脱出口
- ⑥本郭北虎口＝本丸の出入り口。

*教育委員会説明看板＝本郭南虎口

本郭中央から南に突き出すせまい通路を進みさらに西（右）へ直角に曲がった地点が南虎口です。発掘調査により周囲には攻撃や防御するための武器としての石（礫）が溜めてあった場所が4か所みつかかり、また井戸郭へと通じた木橋の石列が検出されました。

*教育委員会説明看板＝本郭北虎口

北方面の虎口は強力な横矢掛りに守られています。南西の井戸跡方面から帯郭を登り進んできた敵は大きく回りこまなければ本郭へ侵入できないよう工夫されています。虎口の前には小さな平場（虎口受け）がみられます。イラスト＝北虎口横矢掛かりイメージ、地すべり防止の土留め作業

5) 戦闘に備えた番城か――本郭

①本郭、土塁、櫓台＝本丸に相当。発掘調査でも本丸御殿や天守に相当する建造物や庭などは確認されていない。特定の城主がなく鉢形城か松山城から派遣された兵士による番城と考えられる。

②周囲の景色

③発掘調査と出土品＝本郭東虎口枳形など多くの虎口から石積みを検出、また土塁断面から粘土質を使った版築跡が確認された。出土品には輸入陶磁器や国産陶器、かわらけ、砥石、銭貨、釘などがあつた。これらから15世紀末から16世紀初頭の年代が確認された。また焦土や焼けた壁土、コマイの炭化竹が出土、火災（落城？）後、廃絶されたものと考えられるという。

④東虎口

⑤東2の郭、3の郭＝東尾根の2の丸、3の丸

*教育委員会説明看板＝本郭

平成14～16年度に実施した発掘調査によって本郭は火災にあい火事場片付けをした上で廃棄されていることが分かりました。建物の年代から本郭で火災があつたのは15世紀末に近い後半から16世紀の初頭と考えられます。発掘写真＝主な出土物、発掘風景

*教育委員会説明看板＝本郭東虎口

発掘調査により南側に八の字に開く石積みと石列を周囲にめぐらした虎口が検出されました。石積みは壊された後に埋められており城を捨てる時に庭されたと思われます。発掘写真＝石積み、石列

*教育委員会説明看板＝東2の郭

本郭の北東側の尾根に作られた東2の郭は全体的に東3の郭に向かって自然の地形のままゆやかに傾斜しています。口側の虎口は杉山しろでは珍しく直線的な「坂虎口」になっています。西側の虎口は本郭からの高くて強い横矢掛りに守られ、北2の郭への近道になっています

以上



2月定例会
56名参加
春季研修会
アルバム



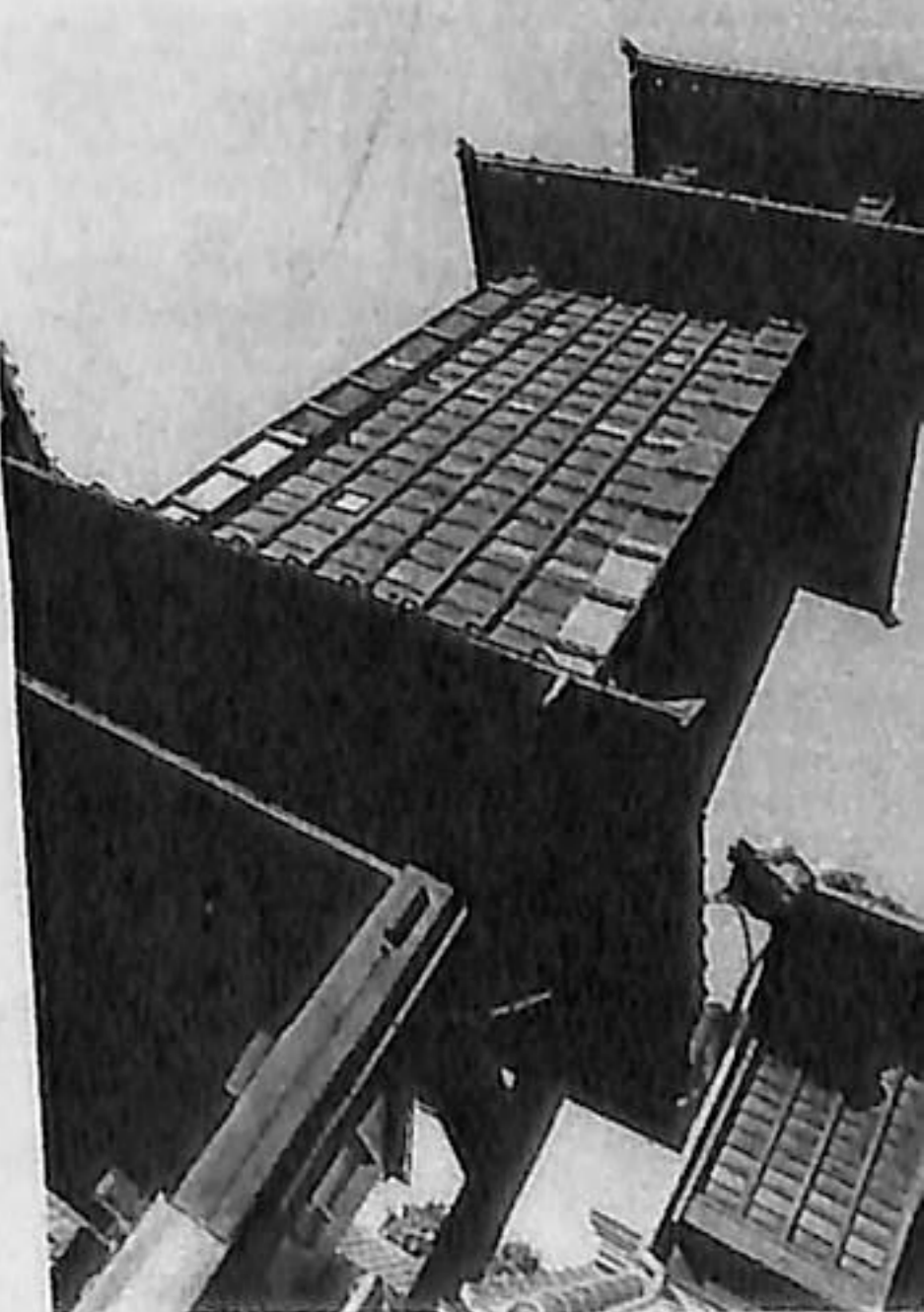
4月定例会 予告 4月9日(水) 川越城と蔵、町をたずねる



本丸跡(内部は平削りボランティアに案内していただきます)

↑喜多院 蔵の町 時の鐘

お花見は？



ギャラリーとお花見

本丸跡の修理見学

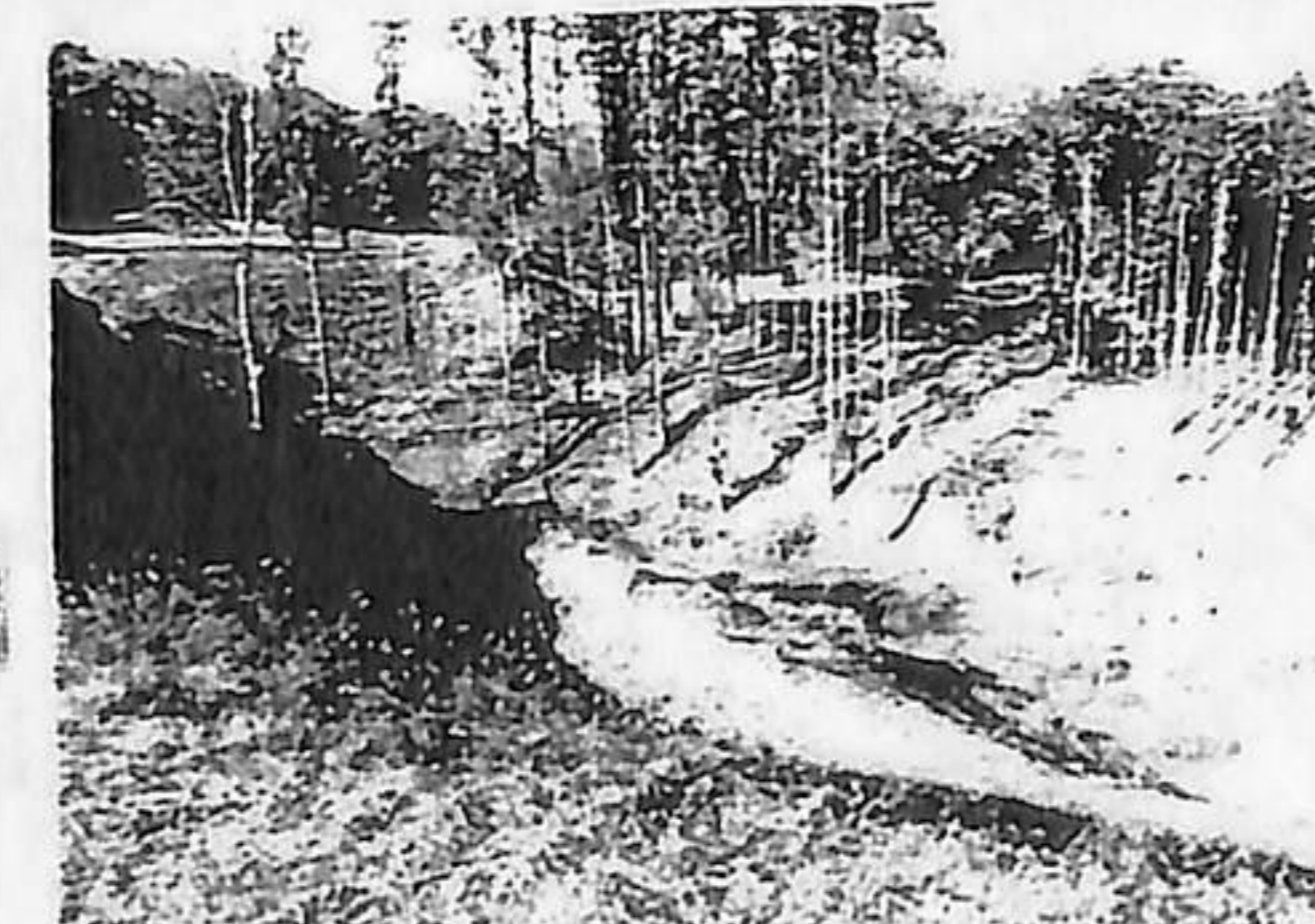


杉山城跡碑

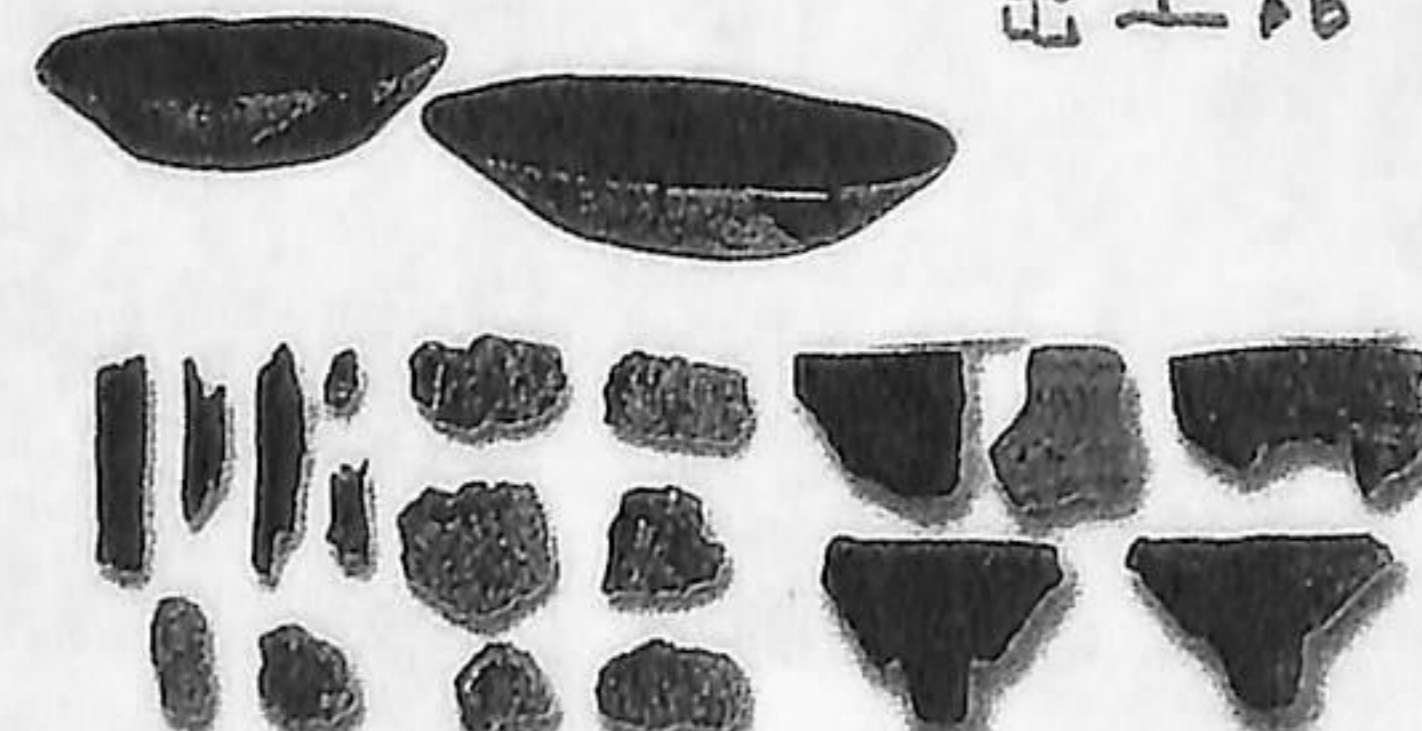


本丸

東門跡



出土品



本丸跡の石積み